

# ❖❖❖❖❖❖❖ 日本獣医師会学会だより ❖❖❖❖❖❖❖

## 日本産業動物獣医学会・日本小動物獣医学会・日本獣医公衆衛生学会

### ----- 日本獣医師会学会からのお知らせ -----

#### ☆平成20年度日本獣医師会学会年次大会（岩手）盛會に終わる

平成20年度日本獣医師会学会年次大会（岩手）は、平成21年1月22日（木）から24日（土）の3日間、岩手県獣医師会の共催、東北獣医師会連合会の協力により、盛岡市・アイーナ及びマリオスにおいて開催され、全国から獣医師や獣医学系大学の学生をはじめ動物看護師（師）等関係者約2,000名余が参加した他、一般市民公開シンポジウムは地元盛岡市民を中心に約1,000名の参加者を得て、成功裏に終了した。

学会の各プログラムでは、多くの会場において満員となるなど連日好評を博したが、特に市民公開シンポジウムである「動物と仲良く暮らすには」、「高病原性鳥インフルエンザ—野鳥から家禽へ—」では地元市民を含む多数の参加者が重要なテーマに真剣に耳を傾けた。

また、本年次大会では昨年度に引き続き(社)日本獣医学会の企画協力をいただき、三学会との合同シンポジウム「牛海綿状脳症(BSE)のこれまで：プリオンの謎はどこまで解明されたか？」並びに日本小動物獣医学会との合同シンポジウム「我が国における獣医専門医制度について」を開催し、ともに多くの聴講者を得て大変好評であった。

さらに、大会2日目には歓迎懇親パーティーが盛岡グランドホテル・鳳凰において盛大に執り行われた。パーティーでは、山根義久日本獣医師会会長から主催者挨拶が行われ、続いて、達増拓也岩手県知事、谷藤裕明盛岡市長から祝辞をいただいた後、本年次大会の共催であり歓迎懇親パーティー主催の岩手県獣医師会の金田義宏会長から挨拶が行われた。

このほか、会期中には学会合同理事会、学会合同定期総会、各学会理事懇談会等も開催された他、学会合同定期総会の場において学会長賞・獣医学術奨励賞の発表と授与が行われ、日本獣医師会会長から受賞者の代表者に賞の授与が行われた。（受賞者等については本誌第62巻第2号の114頁に掲載）。

なお、平成21年度の学会年次大会は、宮崎県獣医師会の共催、九州地区獣医師会連合会の協力により、平成22年1月29日（金）～31日（日）の3日間、宮崎県宮崎市の「ワールドコンベンションセンターサミット」において開催予定である。

#### 【学会合同理事会の開催】

学会年次大会会期中の1月23日、学会会則等に基づいて学会合同理事会が開催され、次のすべての議案事項が異議なく承認された。

- 第1号議案：平成19年度事業及び収支決算報告の件
- 第2号議案：平成20年度事業中間報告及び会員の入会の件
- 第3号議案：平成21年度会費及びその徴収方法の件
- 第4号議案：平成21年度事業計画及び収支予算の件
- 第5号議案：平成20年度日本獣医師会学会合同定期総会に付議する事項

#### 【学会合同定期総会の開催】

学会年次大会会期中の1月23日、学会会則等に基づいて学会合同定期総会が開催され、次のすべての議案事項が異議なく承認された。

- 第1号議案：平成19年度事業及び収支決算報告の件
- 第2号議案：平成20年度事業中間報告及び会員の入会の件
- 第3号議案：平成21年度会費及びその徴収方法の件
- 第4号議案：平成21年度事業計画及び収支予算の件
- 第5号議案：日本獣医師会学会役員補欠選任の件

#### ☆日本獣医師会学会新役員の紹介

平成21年1月23日に開催された平成20年度学会合同定期総会において学会役員補欠選任が行われ、以下のとおり新役員が決定した。

#### 【日本産業動物獣医学会】

〔地区代表理事〕

東京地区 白井淳資（東京農工大学）

四国地区 安部正雄（香川県東部家畜保健衛生所）

#### 【日本小動物獣医学会】

〔地区代表理事〕

東京地区 望月 学（東京大学）

#### 【日本獣医公衆衛生学会】

〔地区代表理事〕

東京地区 山本茂貴（国立医薬品食品衛生研究所）

〔獣医学系大学代表理事〕

東京農工大学 本多英一（農学部）

山口大学 度会雅久（農学部）

※山本茂貴理事は、獣医学研究機関代表理事から移行。

# 日本獣医師会学会誌投稿原稿の募集について

学会では、構成獣医師等からの研究論文を随時募集しておりますので、奮ってご投稿願います。

学会では、構成獣医師をはじめ、獣医学系大学の学生、獣医学関係分野の研究者等が学術研究の発表をされる場として、学会誌への投稿原稿を広く募集しています。

学会年次大会で一般口演された研究発表等も、是非ともご投稿いただき、誌面での発表をお願いします。

投稿を希望される方は、「三学会誌投稿規程（本誌第61巻第12号967～970頁）」及び投稿原稿の審査や編集が円滑に行われることを目的に策定された別紙「三学会誌投稿の手引き（投稿に係る細部要領）」を熟読の上、原稿を作成、投稿されるようお願いします。

## 【別紙】

### 日本獣医師会学会誌投稿の手引き (投稿に係る細部要領)

#### 1 目的

本手引きは、学会誌投稿規程に則り投稿原稿の審査や編集が円滑に行われることを目的に、学会誌投稿規程に記載のない、一般的な事項、編集において必要な事項、著者が見落としやすい事項等を示したものである。

#### 2 投稿資格関連

- (1) 投稿原稿の内容は、未発表の研究業績とする。なお、他の学会誌等に発表された業績は受け付けない。なお、口頭による発表はこの限りでない。
- (2) 発表者（筆頭著者および共著者）は、学会の会員でなければならない。ただし、例外である獣医師でない共著者については、その氏名にアンダーラインを付して示すこととする。
- (3) 発表者は、原則として8名以内とし、研究材料提供等については、謝辞で記載する。

#### 3 投稿要領関連

- (1) 投稿原稿は、初回は正副5部、2回目以降は4部を必ず提出する。

- (2) 原稿は、A4判用紙を使用し、1頁（片面）を25字×24行の横書きで、ページを付す。

【別表】掲載区分と投稿原稿の制限枚数および刷り上り頁枚数

- (3) 原稿の枚数は、表題、和文要約、英文要約（SUMMARY）、本文、図（写真を含む）・表等すべてを含めた枚数で、投稿区分の規定枚数は、別表のとおりとする。

- (4) 特に図、表は、本文との兼合い（枚数、印刷時の大きさ）を十分考慮し、規定枚数内に納める。

- (5) 以上の事項を逸脱した原稿については、審査以前に再提出を依頼する。

掲載区分	投稿原稿制限枚数 A4判ワープロ等 (25字×24行)	刷り上り頁数
総説	20枚	5頁以内
原著	16枚	4頁以内
短報	12枚	3頁以内
技術講座	16枚	4頁以内
資料	8枚	2頁以内

#### 4 執筆要領関連（原著および短報）

##### (1) 用語：

ア 動植物名は、原則として漢字を使用する。ただし、一般的に使用されているものに限り（例：人、犬、猫、牛、豚、鶏、馬、羊等）、それ以外のものはカタカナで表示する。

イ 薬品名は、原則として一般名もしくは局方名を使用し、カタカナで記載する。また、機器名は原則として一般にされる名称を和文で表示する。

ウ 本文中に一般名等で記載した薬品、機器等の商品（製品）名および社名等は、一般名称の直後に括弧内で記載することができる（商品（製品）名、社名、都道府県名の順／例：ニチジュウワクチン、日獣製薬(株)、東京）。

##### (2) 表紙（第1頁）：

ア 最上段左側に学会名、希望投稿区分および「新規」（新規投稿原稿の場合）あるいは「継続」（継続審査原稿の場合）の表示を赤字で明記する。

イ 次いで、表題、著者名、所属機関名（大学は学部名、都道府県勤務は支所名（本所は部名）、までとし、「○

○動物病院」⇒「○○県 開業」(県名は所属獣医師会名)、「株式会社」⇒「株」,「社団法人」⇒「社」,「財団法人」⇒「財」,「独立行政法人」⇒「独」とする。)および所在地住所(郵便番号を含む)を和文で記載する。

ウ 表題は原則として副題,括弧,略号,「～について」,「～に関して」等は付けない。

エ 最下段には連絡責任者の所属(大学は教室名,都道府県勤務は係名まで,動物病院等は,実際の名称を記載),住所,電話番号(ファックス番号),メールアドレスを記入し,別刷を希望する場合には必要部数を赤字で明記する。

オ 表題が28字を超える場合には,28字以内の柱(ランニングヘッド)を記入する。

### (3) 和文要約(第2頁):

字数は360字以内とし,要約の最下段には,原著では5語以内,短報では3語以内の日本語のキーワードを英文のKey wordsに対応する順で記載する。

### (4) 英文SUMMARY(第3頁):

ア 英文の表題,著者名,第1著者の所属機関名,所在地住所(郵便番号を含む),SUMMARYおよびKey wordsを記載する。

イ SUMMARYは,250ワード以内(1ワードを5スペースで換算)とし,ダブルスペース(行間を2行分空け)でタイプする。

ウ SUMMARYはなるべく和文要約に対応した記載にする。

エ Key wordsは,SUMMARYの最下段にABC順で記載する。

### (5) 本文(第4頁以降):

ア 原則として,①緒言(見出しは付けない),②材料および方法,③成績,④考察,⑤引用文献の項目に区分して記述し,数字を用いて項目分けしない。(ただし,短報では必ずしも,この区分で記述する必要はない)。

#### イ 図(写真)・表

(ア) 図(イラストレーションを含む)は,黒インクでA4版の白紙または青色方眼紙を用いて,表題を付け,原図から直接製版できるものとする。

(イ) 表は,縦罫線を入れない。

(ウ) 写真は,白黒でコントラストの明瞭なもの(カラーの際はモノクロ印刷でも明瞭なもの)とし,表題と簡単な説明を付け,原寸印刷が可能ないように必要部分を横7.8cm,縦6.0cmまたは横15.5cm,縦10.0cmに整形して台紙に貼付する(全体を糊付けするのではなく,コーナーのみを糊付けする)。なお,デジタル画像を用いる際は,明瞭な印刷ができるように光沢紙等の専用紙を用いる。

(エ) 写真には図と同様に一連の番号を付け,初回投稿時には5部すべての原稿にオリジナルを添付する。

(オ) 図および表は,1点を1枚の台紙に貼付し,写真とともに原稿の最後にまとめて添付する。さらに,それらの挿入位置を本文の右欄外に赤字で明記する。

#### ウ 引用文献

(ア) 引用できる文献は,学会誌,専門的学術誌あるいは専門書とし,学会抄録,講演会テキスト,レフリー制度のない商業雑誌の他,大学,研究機関,団体の年報・報告書・会報,関係省庁の法令・事業報告,辞書・辞典等,また,ホームページは原則として引用できない。

(イ) 本文中では,著者名の直後等,引用箇所に[1, 2-5]のように記載する。

(ウ) 文末に,本文中最初に引用された順に配列した引用文献リストをおく。①雑誌の場合は,著者名(全員列記),論文のタイトル名,誌名,巻,頁(1箇所のみ),年次(カッコ書き)とする。②単行本の場合は,著者(著者が複数の場合は,引用した著者のみ),記事のタイトル名,書籍名,訳者名(1名のみ記載し,その他は和文では「他」,英文では「et al」とする),編者名,版,頁,発行者,発行地,年次(カッコ書き)とする。ただし,著者名がない際は,編者がいる際は編者名を,その他は,学会,研究会等の名称を記載する。

(エ) 和文誌名は原則として省略しない。ただし,慣例的に使用されているものはこの限りではない(例:日獣会誌,獣畜新報など)。

(オ) 欧文誌名の省略は,List of Journals Indexed in Index Medicus (<http://www.nlm.nih.gov/tsd/serials/lji.html>)による。指定のないものは省略しない。

#### 【雑誌の場合】

[1] 青山太郎,青山花子,赤坂次郎:子牛の開放性骨折の1例,日獣会誌,45,115-120(1992)

[2] 青山太郎,青山花子,江戸三郎,東京 愛:犬のレプトスピラ症の抗原検出法,日獣会誌,45,135-138(1992)

- [3] AoyamaT, AoyamaH : The welfare of animals, Jpn J Vet Sci, 54, 120h124 (1989)
- [4] AoyamaT, AoyamaH, KandaJ : A survey of heavy-metal contamination in imported seafood, J Vet MedSci 54, 126h130 (1992)
- [5] AoyamaT, AoyamaH, Suzuki K, TanakaS, TakahashiY : Pathogenicity of the aino virus in japan, AnJ Vet Res 53, 155h160 (1992)

**【単行本の場合】**

- [1] 神田一郎：マイコプラズマ, 獣医微生物学, 江戸三郎編, 第1版, 100h103, 青山堂出版, 東京 (1992)
- [2] Smith J : マイコトキシン中毒, 選択毒性, 赤坂次郎訳, 250, 学会出版センター, 東京 (1989)
- [3] Roitt IM: Immunophoresis, Immunology, Fred OG, et al eds, 2nd ed, 150h160, Grower MedPubl, London( 1989)